



図書館で地域を知ろう！

平成 21 年 5 月
(平成 23 年 5 月改訂)

名古屋市山田図書館



❖表紙写真（左上から）

ちょうぜんじ
長善寺（上小田井）

かみおたいこうさてん
上小田井交差点

やまにしようすい
山西用水（大野木）

なかおたいえき
中小田井駅

ろくしょじんじゃ
六所神社（比良）

おおのぎじんじゃ
大乃伎神社クスノキ（大野木）

じそうどう
地藏堂（上小田井）

しょうないがわ
庄内川

ほしじんじゃ
星神社ムクノキ（上小田井）

❖表紙古地図

おわりのくにちょうそん え す とくがわれいめいかいしよぞう
「尾張国町村絵図」（徳川黎明会所蔵）

かみおたいむら なかおたいむら ひらたむら ひらむら おおのぎむら
上小田井村、中小田井村、平田村、比良村、大野木村から。

山田図書館の郷土・地域資料コーナーで複製をご覧になれます。

❖小学校3年生のみなさんから読んでもらえるようにこころがけたつもりですが、難しいところもあると思います。お家の人といっしょに読んだり、わからないことは学校や図書館で質問したりしてみてください。

はじめに

げんざい
現在の山田地区に人が住み始めた歴史は古く、やよいじだい
弥生時代にはすでに大きな集
らく
落がありました（あさひいせき
朝日遺跡）。山田という地名も古く、ならじだい へいあんじだい
奈良時代や平安時代には、
やまだぐん やまだのしょう
山田郡や山田荘などの名が見られます。

現在の山田地区は、くかくせいりじぎょう
区画整理事業やえんしん
地下鉄の延伸などにもとない大きくへんか
変化し、人口もぞうだい
増大しました。

主に小学生のみなさんにちいき
地域の歴史を知っていただけるように小冊子を作成
しました。地域を知る上で少しでもお役に立つことができればさいわ
幸いです。

山田図書館

山田地区は歴史の宝庫。地域を知る手がかりになる史跡を探検してみよう！

★山田という名前の由来^{ゆらい}

古い時代の地名に由来があります。むかし、山田郡^{やまだぐん}と山田 荘^{やまだのしょう} という地名がありました。山田地区をふくむ愛知県西部は、かつては尾張国^{おわりのくに} とよばれました。尾張国には古いむかし8つの郡がおかれましたが、その中に山田郡や春日井郡^{かすがいぐん} (春部郡^{かすがいぐん}) がありました。戦国時代^{せんごくじだい}に山田郡はなくなり、その一部は春日井郡となりました。

山田郡には奈良時代^{ならじだい}に東大寺の荘園^{しょうえん}がつくられました。平安時代の909(延喜9)年^{へいあんじだい えんぎ}、この荘園は山田荘とよばれるようになりました。のちに持ち主がかわりますが、荘園は室町時代^{むろまちじだい}まで続いたようです。

山田の名前の由来となった山田荘ですが、その範囲^{はんい}は広く、現在の西区や北区の方まで広がっていたようです。

★山田村から名古屋市へ

1906(明治39)年7月16日、西春日井郡^{にし かすがいぐん}の上小田井・中小田井・平田・比良・大野木の5つの村が合併^{がっぺい}して山田村^{さんじょう}が誕生しました。名前は古い時代の地名に由来しています。

1953(昭和28)年、町村合併推進法^{しょうわ ちょうそんがっぺいすいしんほう}がつけられたのをきっかけに、山田村は名古屋市と合併することになり、1955(昭和30)年10月1日に名古屋市西区となりました。当時7,500人だった人口は現在59,000人に達しています。



↑山田村役場は、山田図書館となりの平塚公園の場所にありました。

★大むかしも人が住んでいました

朝日遺跡^{あさひいせき}という弥生時代^{やよいじだい}の大きな集落のあとがあります。

この遺跡は、清須市から山田地区に広がる大きな遺跡で、2300年くらい前から1700年くらい前までの間、600年にわたって人々が生活していました。愛知県における最大の弥生時代の集落あとです。

竪穴式住居^{たてあなしきじゅうきょ}あとや銅鐸^{どうたく}などのほか、石包丁^{いしぼうちよう}、スキやクワなどの米づくりに必要な道具、ハマグリやいのししの骨などの食べ物^{いぶつ}の遺物も見つかっています。

愛知県清須貝殻山貝塚資料館^{あいちけんきよすかいがらやまかいづかしりょうかん}があり、遺跡のわかる展示をおこなっています。

→愛知県清須貝殻山貝塚資料館 清須市朝日貝塚1 052-409-1467

★古い神社とお寺

いくつもの神社やお寺があります。その中から2つを紹介（しょうかい）します。

大乃伎神社

できた時期ははっきりしませんが、平安時代に書かれた『延喜式』の神名帳というものに名前のある神社です。現在の本殿は江戸時代に建てられました。ボダイジュとクスノキの大木があります。

願王寺

中小田井にある寺院。829（天長6）年に病が流行したときに、おさまることを願って建てられたと伝えられます。



↑大乃伎神社

★比良城と佐々成政

1536（天文5）年比良城に生まれた佐々成政は織田信長の側近として活躍しました。

信長に北陸地方を与えられ富山城主となりますが、信長の死後、豊臣秀吉に対抗します。小牧・長久手の戦いでは徳川家康につくものの、家康が秀吉と講和を結んだために孤立してしまいます。そこで、富山から冬の立山をこえて秀吉と戦うよう家康を説得しに浜松に向かいますが失敗、秀吉に降伏します。秀吉からは肥後（熊本）を与えられますが、地元の反乱をおさえられずに切腹しました。



↑比良の光通寺にある比良城あとの碑

★蛇池と織田信長

比良には4つの池がありましたが、今でも残るのは蛇池だけとなりました。こんな話があります。

信長が活躍した時代の話です。又左衛門という男がこの池のわきを通ったところ、おそろしい大蛇を目撃して逃げ帰りました。この話を耳にした信長は、この大蛇を見つけようと村の人たちを集めて池の水をかき出させました。いくら探しても見つからないのでとうとう信長が自ら池に飛びこんで探しましたが、蛇は見つからなかったという話です。

蛇池と池の西側にある堤防上の桜並木→

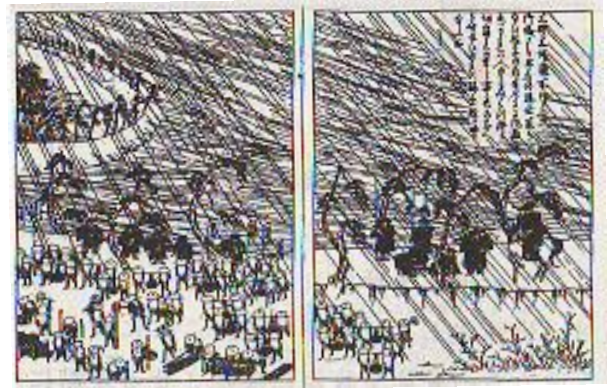


ごみょうがふしん おおのぎづつみ
★御冥加普請と大野木堤

1783（天明3）年の秋、大雨で庄内川が
増水、大野木村の堤防が切れそうになりま
した。これを聞いた藩主徳川宗睦は、熱田
神宮にひたすら祈りました。この願いが通
じたのか、村は洪水の被害を逃れることが
できました。

この恩にむくいるため、村人は大野木堤
の修復工事を願い出て工事を行いました。

これを御冥加普請といいます。約 2,000 人も
の村人が参加しました。藩も村人のために食
事の提供や、けが人のための医者
の派遣などをおこないました。



↑普請の様子。『御冥加普請の記並びに図』
（鶴舞中央図書館所蔵の翻刻）（ブックショップマイ
タウン）より

あらいぜき
★洗堰

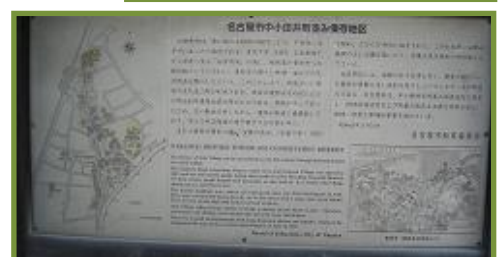
山田地区の南を流れる庄内川はたびたび洪水を
おこし、その被害は大変なものでした。そこで藩
では、9代宗睦のときに水野千之右衛門（士惇）
に命じて水害対策工事を行い、工事は1787（天明
7）年に完成しました。川の北側の堤防の一部を70
メートルにわたって高さを半分にし、川の水が増え
たときはこの部分から水をあふれさせて新しく作っ
た新川に流れ出るようにしました。明治時代には
新川洗堰碑が建てられています。

洗堰の様子と現地にある国土交通省の案内板→



いわくらかいどう なかおたいまちな ほぞんちく
★岩倉街道・中小田井町並み保存地区

1667（寛文7）年、岩倉からの農産物を枇杷島に
開かれた市場に運ぶために岩倉街道が作られました。
街道は中小田井の南で庄内川の堤防の上にあがる坂
があるため、この付近は通行の難所になっていまし
た。そのため、中小田井には休憩や買い物の場所と
して町ができました。現在ある古い家は、おもに18
91年（明治24）年の濃尾地震のあとで建てられた
ものです。市の町並み保存地区に指定されています。



★平田橋事件

1884（明治17）年8月、愛国党を名のる集団によって新川にかかる平田橋の上で警察官がおそわれました。平田橋事件とよばれます。愛国党は、地方の人びとが明治政府にたいして税金が増えることに反対（地租改正反対一揆）したことに始まり、のちに自分たちの意見を政治に反映させる運動に発展した自由民権運動を行っていた人たちでした。平田橋のたもとには警察官の殉職記念碑があります。



記念碑と道むかいにある馬頭観音→

★土地区画整理事業

農村だった山田地区は名古屋市に合併後、工場や住宅が増えはじめ、地区の景観がそこなわれる恐れが出てきました。

そこで将来にわたって安定した開発を進めるために区画整理事業を行うことにしました。1960（昭和35）年に大野木土地区画整理組合が作られたのをはじめ7つの組合が作られ、街づくりのための整備を行いました。1981（昭和56）年に全事業が終わり、現在使われている道路や公園ができあがりました。

平田土地区画整理組合の『土地整理図』などをご参考ください。